

青梅市文化財ニュース

第 2 2 号

平成 元年 8 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

峠之今昔

◎ 市内には 30 の峠道

多摩川や成木川、黒沢川が東流している青梅市域は、集落間を結ぶ東西方面の交通路は発達しましたが、谷と谷との間を隔てる尾根を越える南北間の交通は今でも困難が伴います。

この尾根筋の低部ができたのはいつのころからか不明ですが、馬頭観音や石仏が祀られ交通の安全が祈られてきました。

青梅市史によりますと、市内や他市町とを結ぶ道には、30 の峠がありました。その最高位は、
上成木極指きわぎす —— 奥多摩町大丹波部落を結ぶ名坂峠で標高 720m、最低位は今井 —— 飯能市落合を結ぶ三郡坂の 175m です。

◎ 進む開発、トンネル化

汗をふきふき峠を登り、前面に広がる眺望に思わず喚声をあげた、こんな経験をお持ちの人も多いことでしょう。しかし、時代とともに開発、トンネル化が進み、困難さも軽くなりましたが、あの感激を味わう機会も減ってきました。

二俣尾平溝と北小曾木白岩間に榎峠がありますがこの峠も明治 33 年 5 月、2220 円 50 銭を費やして旧道が開かれました。旧道の傍らに建つ開鑿かいさく工事記念碑によりますと半額は地方税補助で、あとの半額の内約 8 割を発起人と世話人が、他の 2 割を有志の寄附でまかなっています。近年、新道が開かれましたので、峠の頂上はどこか気付かないで過ぎてしまうくらいです。

このように開鑿され切通しに変化するという歴史をたどる峠が多いのですが、青梅坂、吹上峠、松の木峠、満地峠はトンネル化が進められました。たぶん切通しにするには尾根が峻しすぎたためでしょう。

とくに吹上峠は一度は歩いてみる価値のあるところです。黒沢と北小曾木坂下を結ぶこの吹上峠は、文政 11 年 (1828) 北小曾木の名主、野崎嘉右衛門によって牛馬の通る充ちに改修されました。そして明治 36 年、青梅市では最初のトンネルが開通しました。レンガ組みの優雅な姿は、当時の土木技術の粋を映す記念碑的存在として、今でもひっそりと残っています。この旧トンネルの直下に現在の吹上トンネルが開通したのが昭和 33 年。昭和 23 年に着工してから 10 年の歳月を要しました。長さ 241.5m。このトンネルの下に新吹上トンネルが現在掘さく中で、完成の暁には三つのトンネルが交通路の変遷の今昔を語ることになるのです。

(文責 川鍋幸三郎)